



府中市立国府小学校
校長 小川美樹さん

国府小学校の授業変革

本校は、6年前からフレームリーディングを取り入れた授業に取り組んでいます。筑波大学附属小学校に勤務しておられる青木伸生さんの指導を受け、国語の読む力に注目し、授業への取り入れを研究してきました。フレームリーディングは、3段階で完結します。まず1段階は、物語や小説などの全体像を捉えて読みます。次に登場人物や物に焦点を当てて読みます。そうすると、1段階では読み取れな

かったズレがあることを見つけれられます。3段階目は、1段階と2段階で見つけたズレをもう一度読むことで全体を見つめ直し、ズレを解消しつつ読み取るといったものです。このフレームリーディングの読むプロセスを、国語以外の教科へ応用を目指して研究した結果、物事を思考するプロセスへの実践の可能性を見い出しました。そのプロセスとは、端的に言えば、仮説を立て、検証し、再構築するという3段階で成るものです。

Interview 2

フレーム思考を取り入れた国府小学校
先進的な取り組みは国にも認められています

これからの子ども たちに求められる力

フレーム思考



この取り組みと成果を2月9日(金)・10日(土)に開催された全国規模の研究会の学習公開・初等教育研究会で発表しました。参加者が1,000人を超える場所で発表できることは、これまで研究を積み重ねてきて、結果が出ていた証であり、授業改善に取り組んだ教職員の努力が実った瞬間でした。研究成果の発表だけでなく、本校で公開授業をし、市内はもろろん、市外などから実際の授業を見学に来ていただき、フレーム思考を取り入れた授業を広める活動もしています。フレーム思考を取り入れた授業の成果や公開授業などでこの取り組みを広める活動をしてきたことを国にも評価され、広島県では初となる文部科学大臣優秀教職員表彰教職員組織の部を受賞しました。この賞は、国府小学校に関わっていただいた職員全員で受賞したものです。これからは教育の質を高めていくことを目指し、一層の研究・努力をしていきたいと思っています。

来年度から「コミュニティ・スクール」に
コミュニティ・スクールとは、地域と学校が一緒に子育てを育んでいこうというものです。今年度、子どもたちは、国府演じの祭への参画や地域のとんどに積極的に参加していきましました。その中で、自分たちができることで、みんながより楽しくなることは何かを考え、行動することができました。実社会で生きる力を付けることができる場所になっていきます。学校を核にして、国府学区の地域コミュニティの結束力が強まったり、地域文化を高めたりすることもできると思っています。府中市が進めるコミュニティ・スクールや小中一貫教育システムは、全国的にまだまだ進んでおらず、先進的です。府中市はこれから子どもたちに求められる力を、しっかり付けていくよう取り組んでいます。我々職員もそのシステムをしっかりと実践していきます。



府中市立国府小学校
教諭 藤原祐美さん

子どもたちの変化

フレームリーディングの取り組みは、読むプロセスを鍛えることで、文章全体を捉えて読み、思考する力を養います。読むプロセスがしっかりと身に付くと、文章を書くときにも応用することができ、さらに物事を考えるときにも使うことができます。

それを活かす場の1つが作文です。学びが生きて深まる場があることで、子どもたちは、思考したことを表現することに喜びを感じ

ているようです。国府公民館まつりの企画段階から、子どもたちが参加した国府演じの祭は、特に成長を感じたイベントになりました。

子どもたち自身が、まずこうしたらいいんじゃないかという既存のフレームで考えた案を持って、地域の人と打ち合わせをすると、自分たちが考えたこととのズレを実感しました。ズレを無くすために、新たな視点で考え直し、新しい仮説↓検証↓考えの再構築という流れで思考概念が形成され、

全体的に改善する点が見つかり、みんなが楽しめる方法を考え出しました。授業で培ってきた思考のフレームを上手く活用して、実用できたと感じました。短時間で身に付くものではないので、経験の積み重ねがあって、少しずつ成果が上がっていると感じます。

会話や生活にも変化が

今まで習ったものを使って、読もうとか、書くとかとくいくけど、進まなくなってきたとき、「別の方法があるはず」と考える子もいれば、「何か新しい視点がないか」と考える子もいます。そこで議論して、今までの違いを発見し、その解決方法や視点を自分の経験として蓄積していくことが多くなつたと感じています。1つの問いに対して、多面的に捉えて考える力が付いてきたので、自分と違った友達の意見も受け入れ、理解することで、人間関係や普段の会話も変わってくると思っています。